

金田一温泉国民保養温泉地計画書

平成31年4月

環 境 省

— 目 次 —

1. 温泉地の概要・・・2 P
 2. 計画の基本方針・・・4 P
 3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策・・・4 P
 4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画又は同医師との連携のもと入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等・・・5 P
 5. 温泉資源の保護に関する取組方針・・・6 P
 6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策・・・7 P
 7. 温泉地の特性を生かした温泉の公共的利用促進に関する方策・・・8 P
 8. 高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりに関する計画・・・10 P
 9. 災害防止対策に係る計画及び措置・・・12 P
- 添付
1. 国民保養温泉地位置図
 2. 国民保養温泉地区縮図

1. 温泉地の概要

金田一温泉のある二戸市は、岩手県内陸部の北端に位置し、総面積は 420.42k m²に及ぶ。また、東を北上高地、西を奥羽山脈に囲まれ、その中央部を馬淵川が南北に縦貫しており、安比川、十文字川、金田一川など大小の支流が合流して、八戸市で太平洋に注いでいる。

昭和 47 年 4 月に金田一村と福岡町が合併をして二戸市が誕生、平成 18 年 1 月に浄法寺町と合併し現在の二戸市となった。市街地は、馬淵川の河岸段丘上に形成されており、国道 4 号線、東北新幹線、I G R いわて銀河鉄道が馬淵川とほぼ平行に市街地を走り、南は岩手県盛岡市、北は青森県八戸市などに通じている。



国指定名勝 男神岩女神岩から馬淵川を望む

平成 27 年国勢調査時の人口総数は 27,611 人、世帯数は 10,670 世帯で、平成 22 年と比較すると人口総数は 2,091 人の減少、世帯数は 177 世帯の減少となっている。また、昭和 30 年からみた平成 27 年の人口・世帯数の増減率は人口 66.5%、世帯数 148.4%となっており、人口が減少する一方、世帯数は増加している。

平成 27 年における産業別就業人口は、就業者総数 14,580 人、内訳は第 1 次産業 2,734 人 (18.8%)、第 2 次産業 3,792 人 (26.0%)、第 3 次産業 7,972 人 (54.7%)、分類不能の産業 82 人 (0.5%) となっており、平成 22 年度の就業者総数 14,664 人、第 1 次産業 2,830 人 (19.2%)、第 2 次産業 3,910 人 (26.7%)、第 3 次産業 7,913 人 (54.0%)、分類不能の産業 11 人 (0.07%) と比較すると、就業者総数で 84 人減少し、産業構造では第 1 次産業、第 2 次産業は減少し、第 3 次産業は増加している。第 3 次産業の内訳では特に医療・福祉分野で就業人口の増加がみられる。

【二戸市の人口推移】

増減率（昭和30年=100）

年 度	世帯数	人口総数	男	女	世帯増減率 (%)	人口増減率 (%)	人口密度(人) (1km ² あたり)
昭和30年	7,189	41,494	20,159	21,335	100	100	98.7
40年	8,725	39,300	18,836	20,464	121.4	94.7	93.5
50年	9,970	37,636	18,114	19,522	138.7	90.7	89.5
60年	10,831	37,285	18,106	19,179	150.7	89.9	88.7
平成2年	10,701	35,017	16,666	18,351	148.9	84.4	83.3
7年	10,929	33,755	16,108	17,647	152.0	81.3	80.3
12年	11,278	33,102	15,845	17,257	156.9	79.8	78.7
17年	11,052	31,477	14,862	16,615	153.7	75.9	74.9
22年	10,847	29,702	13,963	15,739	150.9	71.6	70.6
27年	10,670	27,611	12,949	14,662	148.4	66.5	65.7

資料：国勢調査

※合併以前の年度においては合計値を記載

【産業別労働力人口】

(単位：人)

産業大分類	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
就業者総数	18,381	17,657	16,169	14,664	14,580
第1次産業	4,415	3,526	3,358	2,830	2,734
第2次産業	5,722	5,577	4,461	3,910	3,792
第3次産業	8,237	8,553	8,341	7,913	7,972
分類不能の産業	7	1	9	11	82

資料：国勢調査

金田一温泉は、二戸市の北東部、IGRいわて銀河鉄道金田一温泉駅の東側に位置し、馬淵川沿いに広がる静かな温泉地である。

金田一温泉は温泉地としての歴史は古く、寛永3年(1626年)の発見と伝えられ、田んぼからお湯が湧いていたことから「湯田温泉」とも呼ばれ、正徳2年(1712年)には南部藩の指定湯治場として栄えた。

昭和26年まで数か所の自然湧出する源泉を用いていたが、昭和26年以降にボーリングを重ね、昭和63年は源泉が10か所あったものに加え、平成元年、2年には新たに2か所のボーリングを実施し、集中管理方式により各温泉旅館に配湯している。最盛期には、二十数件の旅館が営業していたが、旅行者ニーズの多様化や、後継者難により、現在の温泉入浴施設は7施設になり、使用されている源泉も4か所となっている。

2. 計画の基本方針

金田一温泉は、古くは南部藩の指定湯治場であったことから「侍の湯」として知られ栄えてきた温泉地であり、新生代新第三期の化石が発掘されるなど、歴史的・文化的資産が遺され、現在もなお豊かな自然環境が保たれており、観光のみならず保養・休養を目的とした宿泊客が訪れている。

また、近隣には金田一近隣公園プールがあり小中学生を対象にした二戸地区水泳大会が開催されているほか、介護老人保健施設などの高齢者施設や、障がい者の就労継続支援施設がある。

こうした周辺環境から、金田一温泉地域は多様な役割を担い、様々な人が集うことから、すべての来訪者が心地よく過ごせる温泉地として定着している。

この計画の実現のために、二戸市の各種計画とも連携をしながら取り組みを行うとともに、今後、公民連携事業で予定されている金田一近隣公園と温泉宿泊施設が一体となった施設整備と、伝統や風土の中で育まれてきた資源に磨きをかけ五感で堪能する体験型産業観光の推進により、地域の持つ宝を活かすまちづくりを進め、来訪者にとってより魅力があり心地よく過ごせる温泉地を目指していく。

3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策

(1) 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の概要

金田一温泉のある二戸市は、平均気温 9.7℃、年間降水量 996.4mm、年間降雪量 295.4cm（平成 20 年～平成 29 年の平均値）気温の年較差が大きい内陸性気候で、降水量、降雪量は少ない気候となっている。

また、金田一温泉地域の地質は、昭和 44 年に実施された「金田一温泉地域温泉総合化学調査」によると、古生層を基盤とし、新第三系及び第四系より成っており、新第三系は下位より順に仁左平石英安山岩、門の沢層（下部のカキ殻部層と上部の門の沢部層に分けられる）、末の松山層（下部の左岸部層と上部の安山岩質火砕岩部層とに分けられる）に区分される。また、第四系は洪積統および沖積統に分けられる。古生層は基盤岩として発達し、地域の南東部に主にその分布が見られ、主として粘板岩より成る。カキ殻部層中には貝化石が多く見つかる。

そのため、金田一温泉地域では貴重な化石の発見も多く、淡水棲の亀としては世界で 1 個体が確認されているのみの「ユダクサカメ」や約 1,580 万年前に生息されていたとされる体長 3メートルほどのケントリオドン科のイルカである「ニノヘイルカ」、約 1,500 万年前に北太平洋沿岸に生息していた大型のほ乳類「パレドパラドキシア」、動物や植物などを核にして凝結した球体の化石「ノジュール」などの化石が発見されている。

こうした気候や土壌はフルーツの栽培に適しているとされ、金田一温泉の高台には約 20ヘクタールにも及ぶリンゴ園地が広がるほか、川沿いには、ブルーベリー園地も設けられている。糖度や蜜入り、大きさなどにこだわった質の高いフルーツが生産され、収穫時期には摘み取り体験を行うことができる。

さらに金田一温泉から馬淵川に流れる長川の河口付近では、ゲンジボタルを見ることができ、

地域住民の長川の環境整備などの保全活動により年々ホタルの発生数は増加している。

金田一温泉地域では、「座敷わらし」の伝説が残り、地元の中学校の生徒らは地域学習で座敷わらしに関連した郷土の歴史文化を学習するとともに、座敷わらしをテーマにした全校演劇を行い、平成30年度には全国中学校文化祭に出場した。



金田一温泉観光りんご園から望む金田一温泉

(2) 現状について

金田一温泉地域では、「金田一温泉地域活性化プラン」を策定し、地域住民で組織される金田一温泉地域活性化プラン実行委員会が主体となり様々な活動に取り組んでいる。

また、金田一温泉地内の歩道、くつろぎ広場、展望台の草刈りや、金田一温泉さわやかトイレの清掃は地元自治会が担い、景観保全を行っている。

(3) 今後の取組み方針

金田一温泉を象徴する自然資源や湯治場としての歴史・風土・文化といった資源を保全・活用する温泉地を目指すため、地元住民及び関係機関等と調整・連携し、取り組みを継続するとともに、金田一温泉周辺地区のエリアの価値を高めるため、街並みの要素やサイン、修景に配慮したまちづくりを進めていく。

さらに、地域の遊歩道や公園施設を生かした健康増進につながるメニューづくりを行うとともに、周辺に広がる農村風景を維持するため、農業団体や地域団体等との連携を強化する。

4. 医学的な立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画又は同医師との連携のもと入浴方法の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等

(1) 医師又は人材の配置の状況

金田一温泉では、医学的立場から健康管理についての指導を行う医師を配置しており、その氏名及び活動の状況等は以下のとおりである。

また、市の長寿・健康増進事業として市の保健師による健康チェック、体操、入浴などの指導を行う取組みを行っている。

①医師

氏名	専門分野	活動内容	配置年度
二戸市国民健康保険 金田一診療所 谷藤 幸夫	内科 アレルギー科	適正な温泉利用や健康管理についての指導及び入浴客の体調不良等に対応。	H30 年度

②人材

氏名	活動内容	配置年度
市保健師	長寿・健康増進事業の開催 「にのへ湯ったりお達者クラブ」 健康チェック、体操、入浴、手作業など。	H25 年度

(2) 配置計画及び育成方針等

金田一温泉では(1)の医師の配置を継続しつつ、適正な温泉利用や健康管理について医師との連携体制を継続強化していく。

それに加え、各入浴施設において、民間会社の認定する温泉コンシェルジュの資格を活用した取組みや、温泉利用を安全かつ適切にできるよう、入浴方法の指導ができる人材を育成していく。

5. 温泉資源の保護に関する取組方針

(1) 温泉資源の状況

金田一温泉では現在4本の源泉が使用されている。源泉温度は33.5℃前後であり、泉質は若干の違いはあるものの共通して低張性弱アルカリ性低温泉である。

源泉	温度 (℃)	湧出量 (ℓ /min)	泉質	湧出状況	所有者	利用状況	調査年
大湯	33.3	36.7	単純温泉	自然湧出	民間	旅館1施設	H26
玉の湯	33.4	構造上 測定不能	単純温泉	自然湧出	民間	旅館1施設	H21
金栄の湯	36.0	52.8	単純温泉	自然湧出	民間	旅館1施設	H21
黎明の湯 ※集中管理	33.7	181.0	単純温泉	自然湧出	民間	旅館4施設 日帰り入浴	H26

						施設 1 施設	
--	--	--	--	--	--	---------	--

(2) 取組みの状況

金田一温泉における各源泉について講じている保護に関する取組みの状況は、以下のとおりである。

源泉	取組み	実施主体	実施年度
黎明の湯	温度、湧出量、水位等の現地調査（毎年度）と温泉分析を定期的実施。	源泉所有者	平成 26 年度
その他各源泉	温度、湧出量の現地調査（毎年度）と、温泉分析の実施	源泉所有者	平成 21 年～平成 26 年度

(3) 今後の取組み方策

金田一温泉において温泉湧出状況に大きな変化は出ていないが、将来枯渇や湧出量の減少等、問題が発生する可能性がある事を想定して、温泉資源保護を推進し、実施主体と連携し、(2)の取組を継続して行う。

6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策

(1) 温泉の利用に当たっての関係設備等の状況

金田一温泉において、温泉の利用にあたって使用している施設及び温泉利用の状況は以下のとおりである。

①浴用利用

温泉地	源泉数	浴用施設までの設備	浴用利用施設数
金田一温泉	4	引湯管、貯湯槽	7 施設

(2) 取組みの現状

金田一温泉において、温泉の利用にあたって使用している設備について、現在講じている衛生面での取組み状況は、以下のとおりである。

設備	区分	取組み	実施主体
源泉	自主的	沢水や土砂等が混合しないように遮水対策を実施。 温度、湧出量、水位等の現地調査、温泉分析を定期的実施。	源泉所有者
引湯管	自主的	すべての引湯管、バルブ、ドレン等の点検を定期的に	設備所有者

		実施。	
貯湯槽	条例等	すべての貯湯槽について、年1回以上の点検・清掃と、年1回のレジオネラ菌の検査を実施。	設備所有者
浴槽	条例等	〈浴槽水〉 浴槽水の十分な補給・清浄を保持。 浴槽水の水質検査（レジオネラ菌）を年1回実施。 循環式浴槽が大半を占めるため、浴槽水は週1回以上交換実施としている。 〈浴槽〉 すべての設備周辺について、浴槽水の排出後の清掃を週1回以上実施している。	設備所有者
設備周辺	自主的	すべての設備周辺において、清掃の徹底と衛生保持に努める。	源泉所有者 設備所有者

（3）今後の取組み方策

温泉を衛生的に保ち、実施主体と調整の上、（2）の取組みを継続する。

温泉保養・療養の地として発展していくことや、利用者の安全確保のためにも、徹底した衛生管理を行い、永続的に利用者が安心できる憩いの場を守っていく。

これまで金田一温泉の源泉は、民間による管理で維持されてきたことから、条例などによる規制は行っていないが、温泉という限られた資源を確保するために、温泉関係者と協議を行い、保護対策を検討する。

7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策

（1）温泉の公共的利用の状況

金田一温泉は寛永3年（1626年）の発見と伝えられ、古くは南部藩の指定湯治場だったことから「侍の湯」と呼ばれ親しまれてきた。

座敷わらし伝説や、金田一京助、三浦哲郎ゆかりの宿があるほか、この地域の地層は主に新生代第3紀層中新世で構成され、海棲動物や樹木類の化石を多く含んでいる。こうした土壌はフルーツ栽培に適しているとされ、観光リンゴ園や、ブルーベリー栽培が行われ多くの利用者に親しまれている。

また、老朽化している金田一温泉センターの建替えに伴い、金田一温泉センター及び都市公園「金田一近隣公園」を中心とするエリアを、暮らす人と訪れる人に「贅沢で楽しみのある日常」を届けながら、新しい産業の仕組みをもって地域全体を豊かにする都市公園として再生し、フィールドと既存施設を有効に再活用し、新たな日常を生み出す核として機能するエリアに再生するため、事業構想に基づいた公民連携事業により整備を検討している。



緑風荘に隣接するブルーベリーファーム

①過去3年間の温泉の利用者数

(単位：人)

温泉地	区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
金田一温泉	宿泊	8,530	15,903	15,246
	日帰り	115,833	121,219	116,508

②直近1年間（平成29年度）の温泉の利用者数

(単位：人)

温泉地	区分	施設数	利用者数						
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
金田一温泉	宿泊	7	956	1,714	991	1,363	1,800	1,332	1,945
	日帰り	8	8,905	9,773	7,486	7,621	11,645	8,563	8,972

	利用者数				
	11月	12月	1月	2月	3月
宿泊	1,742	1,238	728	590	847
日帰り	9,111	11,625	13,460	9,678	9,669

金田一温泉旅館施設・・・緑風荘、仙養館、旅館おぼない、きたぐに旅館、スパドーム、ホテル
金田一、旅館ふじ（7施設）※平成29年度末時点

金田一温泉日帰り入浴施設・・・金田一温泉センターゆうゆうゆ〜らく（1施設）

(2) 取組みの現状

金田一温泉において、温泉の公共的利用の増進を図るため、現在行っている取組の状況は以下のとおりである。

取組み	実施主体
パンフレット、インターネット、SNSなどで、金田一温泉の紹介とPR活動を実施。	二戸市 二戸市観光協会
地域住民主体で金田一温泉を活性化するため「金田一温泉地域活性化プラン実行委員会」を組織し、温泉地内の環境整備や、活性化のためのイベントを実施。	実行委員会
金田一温泉の活性化のためのイベント「金田一温泉まつり」を実施。 金田一観光りんご園を中心にイベント「金田一温泉りんご収穫祭」を実施。	実行委員会 実行委員会
金田一温泉に伝わる「座敷わらし」を題材に学習をしながら演劇を行い、全国に対して金田一地域の歴史文化の発信を行っている。	二戸市立金田一中学校
金田一温泉地内の刈り払い、公衆トイレの清掃など景観周辺環境保全を実施。	地元自治会

(3) 今後の取組み方策

金田一温泉の特徴である周辺の農村風景や果樹園と一体となった取組みなどにより公共的利用の増進を図る。また、公民連携事業による金田一近隣公園エリアの整備により、暮らす人と訪れる人がリピーターとして定着し、温泉を楽しむ地域を目指す。実施主体と調整の上、(2)の取組みを継続するとともに、それらに加え、以下の取組みを進める。

取組み	実施主体
・公民連携事業による金田一近隣公園エリアの整備	市、民間
・新施設をビジターセンターとした公民連携の取組み	市、民間
・金田一温泉の案内板の設置及び整備	市、民間、実行委員会
・統一した街並み景観の形成	市、民間
・人にやさしい建物や街路、公共空間の創出	市、民間
・このへ型テロワールによる体験型産業観光の推進	市、民間
・着地型商品開発にかかる環境整備	実行委員会
・温泉資源を活用した新しい産業の取組み	実行委員会

8. 高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりに関する計画

(1) 公共の用に供する施設の状況

金田一温泉における公共の用に供する施設の状況は、以下のとおりである。

区分	施設
公有施設	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（県道金田一温泉線、市道プール線、ほか20本） ・日帰り入浴施設（1施設）（金田一温泉センター） ・公園施設（1施設）（金田一近隣公園） ・プール施設（1施設）（金田一近隣公園プール） ・公衆トイレ（1施設）（金田一温泉さわやかトイレ）
私有施設	<ul style="list-style-type: none"> ・旅館施設（6施設） （緑風荘、仙養館、旅館おぼない、きたぐに旅館、スパドーム、ホテル金田一）

（２）取組みの現状

金田一温泉において、高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりのため、現在行っている取組みの状況は下記のとおりである。

区分	施設	取組み	実施主体
公有施設	道路	定期的に路線の見回りを行い、危険箇所がないか確認をしている。 また、必要に応じて改修を実施。	岩手県 二戸市
	建築物	館内の段差解消をするため、スロープの設置や、入口の段差解消をしている。	二戸市
私有施設	建築物	旅館などの宿泊施設において、浴室や廊下、階段などの段差解消を図りながら、利用者の安全確保に努めている。	施設所有者

（３）今後の取組み方策

金田一温泉において、さらに高齢者、障がい者及びユニバーサルデザイン等に配慮したまちづくりを図るため実施主体と調整の上、（２）の取組みを継続するとともに、それに加え以下の取組みを進める。

区分	施設	取組み	実施主体
公有施設	道路	温泉地内の道路の修繕及び保守管理。 外国人旅行者へ向けた、多言語やピクトグラムなどのサイン整備を推進する。	岩手県 二戸市
	建築物	施設において入口スロープの整備、点字表示の設置を推進。公衆トイレのバリアフリー化、オストメイト対応トイレの設置。 外国人旅行者へ向けた、多言語やピクトグラムなどのサイン整備を推進す	二戸市

		る。	
私有施設	建築物	施設において入口スロープの整備、点字表示の設置を推進。身障者トイレの整備を推進。 外国人旅行者へ向けた、多言語やピクトグラムなどのサイン整備を推進する。	施設所有者

9. 災害防止対策に係る計画及び措置

(1) 温泉地の地勢及び災害の発生状況

二戸市の地勢は、中央部を南北に縦貫する馬淵川を境にして、東西で趣が異なっている。金田一温泉地域のある東部は北上山地の北端である折爪岳が南北に走り、山頂で九戸村と境を接し、この付近から発する深い河谷は小河川となって馬淵川に注いでいる。馬淵川は北上高地の袖山に源を発し、両岸に河岸段丘をつくりながら青森県に入り、八戸市で太平洋に注いでいる。

金田一温泉地域の一部が、急傾斜地崩落危険箇所及び土砂災害特別警戒区域（土石流）、土砂災害警戒区域（急傾斜地）に指定されており、それらは平成28年3月に発行した二戸市防災マップで周知されている。

近年では平成11年におこった二戸豪雨災害で金田一温泉地域においても浸水被害があった。

現在はこうした過去の災害をふまえ、二戸市地域防災計画に基づいた取組みを進めているほか、地元消防団の積極的な活動により防災への対策が行われている。

(2) 計画及び措置の確認

金田一温泉においては、浸水危険箇所及び急傾斜地崩壊危険箇所、土砂災害特別警戒区域（土石流）、土砂災害警戒区域（急傾斜地）が存在している。それに対し岩手県や二戸市で、現在災害防止に関して策定している計画及び講じられている措置は、以下のとおりである。

計画又は措置	計画又は措置の概要	実施主体
岩手県地域防災計画	県土並びに県民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、災害対策基本法に基づき、県防災会議が作成する計画で、県内市町村の危険箇所数を明記している。	岩手県
二戸市地域防災計画	災害対策基本法や県の地域防災計画に基づき作成。土砂災害危険箇所（土石流・急傾斜地）や、警戒避難体制に関する事項を明記し、災害発生時の迅速な情報収集、情報提供を行うとともに、防災活動の総合的かつ計画的な推進を図る。	二戸市
二戸市防災マップ	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づ	二戸市

	<p>き、金田一温泉地域の一部が急傾斜地崩壊危険箇所及び土砂災害特別警戒区域（土石流）、土砂災害警戒区域（急傾斜地）に指定されている。</p> <p>有事の際に避難に活用できるように、各家庭に配布されている。また、市外の人でも閲覧できるように市のホームページでも情報公開を行っている。</p>	
--	--	--

（３）今後の取組み方策

金田一温泉において、さらに災害の防止を図るため、実施主体と調整の上（２）の計画及び措置に基づく取組みを継続するとともに、それに加えて以下の取組みを進める。

取組み	実施主体
<p>現在、防災行政無線の更新において、災害発生時の迅速な情報収集、伝達手段として、従来の方式に加えて、地元FM局を利用した防災ラジオやスマートフォン等への配信などで、住民への情報伝達手段の多重化・多様化を行うこととしている。今後も、関連機関と綿密な連携を取りながら、高齢者や障がい者等の要援護者への迅速で正確な情報提供が行われるよう、広報体制の整備を図る。また、実情に応じて地域防災計画の見直しを実施する。</p>	二戸市
<p>温泉施設利用者等に対して避難場所を記載したハザードマップの掲示や避難誘導訓練の実施を行う。</p>	二戸市 施設所有者

金田一温泉地位置图



